

「土砂災害から身を守るために」

長野県 私立才教学園中学校 1年 青柳 翔子^{あおやぎ しょうこ}

私は土砂災害が起きてしまった時に、危険な場所にいる人全員が命を守るための最善の行動をとれるようにする事が大切だと思います。早めに避難行動をとってれば土砂から逃げ切ることができて助かったかもしれないのに、情報を待ちながら避難を考えてゆっくりと準備していて結局土砂におそわれ、ケガをしたり亡くなってしまうのはとても命がもったいないと思うからです。

能登半島地震によって土砂災害が発生したところで、家族に「走れ！」と言われて避難している人をニュースで見たことがあります。後ろにはどろや木がせまっておき、もしこの時に避難をうながしてくれる人がいなければと思うとゾッとしました。同時に、逃げおくれそうな人がいた時に「いっしょに逃げよう」、「避難しよう」と言ってくれる人の大切さを感じました。

防災士という資格があります。災害が起こった時に現地に行ってボランティア活動を行ったり、災害が起こる前から、いざ起こっても被害を大きくせずに済むような取りくみを行います。私も防災士の資格を取得するための講座を受講しました。その時に講師の先生が「私は逃げるよ」という言葉や、「一緒に避難しよう」という声をあげて「周りの人のスイッチ」になる、とおっしゃっていました。また、声をかけるためには、近くに住む人と「顔の見える関係」をつくっておくことも大切です。いざ声をかけ合って逃げようとしても、まわりは知らない人でいっぱい、という状況になってしまえば助け合うことがむずかしくなってしまうと思います。したがって、ふだんから近所の人にあいさつをするなどして、「顔の見える関係」をつくっておくことも重要だと考えます。私も、朝登校するときや帰ってくる時、近くに住んでいる人にあいさつをして関係性をつくっています。

また、非常持ち出し品を入れたリュックなどの置き場所も重要だと思います。例えば、「いつも1階で過ごしているし、玄関も近いので1階のキッチンに避難リュックを置いておいた。しかし、土砂がおしよせてきたため上の階に避難したが、あせっていたのでリュックを忘れきてしまい、取りに行けなくなりました。上の階には何もない…」という事になってしまうと、せっかく用意しておいたリュックは使えなくなってしまうと思います。そこで、こういった事態を防ぐためには、私は「家の複数か所に生活用品や食品などを置いておく」という事をすると思います。例えば、2階だての1けんやなら「いつも生活している1階にリュックを1つ、1階にどろが入ってきてリュックが置き去りになってしまった時のために2階にも生活用品や水、食料などをまとめて置いておこう」という感じです。私の家は3階建てですが、いつも生活している2階にリュックや食品など、飲み水などがあり、3階にある私の部屋には2階にある物を分けてつめたリュックがあります。こうしておけば、もし片方が使えなくなってももう片方のリュックの中身で生きのびることができるかもしれません。

以上ことから、私は土砂災害が起きる前に近所の人と顔の見える関係をつくっておくこと、非常持ち出し品の入ったリュックやふくろなどは家の複数か所にまとめて置いておくことが大切だと考えます。そして、いざ土砂災害が起こりそうになったら早めに避難するための準備をととのえてすばやく逃げること、その際にはまわりの人、近くに住んでいる人に声をかけながら避難することを心がけたいです。

1人の防災士として、もし災害が起きてもだれもぎせいににならないように、まわりの人と協力して活動し、地域や学校みんなの命を守りたいです。そして、災害が起こる前から、もっとたくさん土砂災害について学び、災害救助や防災活動に役立てていきたいです。